令和５年度第１回 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館運営協議会

日　　時　令和５年７月27日（木）午前10時30分～12時
場　　所　八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 研修室
出席委員　岡村道雄会長　高田和徳副会長　山下治子委員　木村和彦委員
　　出貝幸浩委員　石川宏之委員（オンライン）
事 務 局　中村館長　松橋副館長　渡参事　小久保副参事　船場主幹

次第
１．開会
２．委嘱状交付
３．教育長挨拶
４．会議

(1)令和４年度事業報告について

事 務 局 ：	概要説明
岡村会長：	今までのご説明に何か質問ということですが、まず展示について、これだけの量の展示を意欲的にされていてさぞかし準備等大変だったと思いますが、展示に関して何か感想、質問ありませんでしょうか。
髙田委員：	ずっと精力的にこういう展示をやられて、もちろん埋蔵文化財センターですから発掘調査がメインなわけでして、それをやりながら尚且つこういうような感じでテーマを設定して、そして展示をして、しかもそれが普通ですと年に１回とかみたいな感じなのですけれども、2、3本こういうような形で精力的にやられて凄いなというのが実感です。 ともするとある年で頑張ってやってしまうと、次から疲れてしばらく休むとか、それが普通なのだけども、継続してこれだけずっと続けてやられているのは凄いことなのだと思うのですけども、職員の皆さんがこれはもちろん分担してどなたがやるか決められてやっていると思うのですけども、どうなのでしょうね。楽ではないでしょうけども、その分はどうなのかなとずっといつも思うのですけども、本当に物集めたりから展示したりで企画を作るところからでしょうからね。大変だとは思いますけども、実情みたいなものを、もし聞かせていただけるのであれば、お願いいたします。
事 務 局 ：	企画展示につきましては、今後４年ないしは５年先までおおよそのタイトルというか目標を決めまして、その中で例えば合掌土偶の国宝指定の周年にあたる年、来年は15周年になりますので、それであれば風張遺跡について重要文化財指定以来行っていない展示ですので、風張遺跡展をやろ

	うかとか、そういった周年行事に合わせながら最近は内容の整理をして開催を目指しております。 　また学芸員それぞれの興味関心について意見も上がりますので、実現可能かどうか学芸員の中で意見交換をかなりして、是川縄文館でやるべき展示なのか、時期を捉えているのかそういったことも含めた検討会をやっておりますが、現状としては学芸員も異動がありまして、例えば昨年度は共同研究展示をやる予定だった学芸員が異動になってしまって、交代になったので交代した学芸員が一からあるいはゼロから3か月でまとめるというようなことも生じるのが現実ですので、そうなると1人では無理なので総力で夏までになんとか形にするような体制というのもそういったことも起きてはいるのですが、なんとか前年度も予定通り開催にはこぎつけることが出来たということですが、期間等も設けながら止まらないようにということを心掛けてはいるのですが、なかなか異動が起きると厳しい状況もたまに生じているのが現実となります。以上です。
木村委員：	よろしいですか。ここに特別展の企画展の観覧者数の内訳が載っているのですが、昨年度令和4年ではまだコロナが収束しておらず、今でも収束していないですが、その中での観覧者数について、縄文館としてどう評価しているのか。 　それともう一点が、5月8日からコロナが感染症法上の2類から5類に移行になったということで、それ以降の観覧者数の推移がどうなっているのかというのを、その2点を伺いたいです。
事務局：	令和4年度を通して観覧者数は全体で3万人を超えまして、明らかに令和3年度が2万3千人でしたので、急激な回復を前年度からみせてまいりまして、企画展示につきましても世界遺産登録効果が足踏みしていたものと、コロナで段々外に出られるようになったのが重なりまして、前年の夏秋ぐらいからかなり人出が増えてきている状況になっています。 　5類移行後につきましては、現状で開館以来の入館者数になっていまして、かなり増えてきている状況です。団体の縄文遺跡群のツアーは毎週のように来てもらっているのですが、その他JRの大人の休日クラブキャンペーンを利用した個人の旅行客の方も6月から7月にかけて本当にたくさん来ていただいて、今年度は、特に目立ってよくわかるような状況になってきています。
木村委員：	その中で最近海外からの観光客も最近日本の、もちろん人気あるのですけど、もう富士山とか京都とかじゃなくて、自分が発見したレアな日本という、何かそういうのをすごく海外旅行者の間では、そっち側にシフトしているという話みたいですけど、海外のインバウンドの関係でこちらに来られているというのはどうでしょうか。顕著にみられたりするのでしょう

	か。
事 務 局 ：	あまり目立って団体でということはまだないのですが、4月からアンケート調査も再開しまして、台湾からいらっしゃったとかそういうアンケートの結果もいただいていますので、また状況が少しずつ変わってきているのかなという感じです。
岡村会長：	レアな、と言われましたけど、私も海外調査に何回か行っていますけど、遺跡の調査で、やはり行った先でその地域の生活文化とか、そういうあるいは民族とかその固有のものに惹かれます。発掘に行っても、周りに生えている食える草が気になったりとか、そういうその場でしか体感できない、それは風だったり風景だったり自然だったりするのですけど、そういうものにやはり、今外の人たちは異文化を求めて、やはり見たいのです。 そういうコアな観光を宣伝するような、それに一回見たら終わりで、これからまた来る人たちは、たぶん言い方が変かもしれないですけど、田舎の日本らしいそういうものに対する異文化体験、だからこそ現地に行きたいとか、そのへん大事にしていただきたいなという感じはします。 他にどうですか。展示に関して。
山下委員：	すみません。インバウンドの方が台湾とかこれから中国の方も見えるだろうと思うのですけど、そういう方は、どういうルートでアクセスというか来られている感じですか。
事 務 局 ：	ちょっと我々のほうでは、申し込みいただいていなくアンケートで知ったようなことです。
木村委員：	台湾は、青森銀行がチャーター便等で一生懸命呼び寄せている、実はインバウンドは、コロナ前は東北で青森県が一番伸び率が多かったと私は聞いていました。かなり青森県はインバウンドに力を入れています。ただ、今まだ中国からの中国政府のビザがまだ厳しいみたいですね。まだ中国はよくわからない状況です。それ以外のところは、引き続きたくさんいらしていただいているかなというふうに思っています。
山下委員：	盛岡もすごい人気だとか。
髙田委員：	ついでにちょっと、来ていただきたいと思うのですけど。
事 務 局 ：	台湾からのお客様は、今お話したように、青森空港からこちらに来ていらっしゃる方が多いのではないかなというふうに考えております。
岡村会長：	あとは、世界遺産の銘を打ったそのツアー、縄文世界遺産ツアーがどのくらい今動いているのかというのは、なかなかここではあれかもしれない。高田さんなんかガイドして歩いているそうじゃないですか。
髙田委員：	何回かは歩いただけですけど、やっぱり人気というか、他の世界遺産のやつよりは続きそうだという話はしていました。結構募集すると、食いついてくれるようなところがあるのですよ。ただ向こうから付いてくる説明

	の方が、全然考古とか遺跡とか全然関係ない人で、観光の専門家とかどこどこの大学の先生たちでやっていたのです。大半の人達がそれで来るのだけれども、うちでもうちのボランティアの人たちが一緒に実際にその方が自分で説明するというから、その説明を聞いていたら、全然トンチンカンなことを喋っているし、それからあと鹿角とか、青森のほうでも、そういった話を聞いていて、私のほうでも、実は大手のツアー会社ですから、色々実際に喋ったのです。それは酷いじゃないですか。やはりもしあれだったら、東北の縄文なら縄文のことを、ちょっとでもやっぱりかじっているというか、知っている方にそういう方にやってもらわないと。大概、関西の方なのですけどね。 　そういうことやっている時点で駄目ですよ。せっかく縄文のこういったツアーに来る方というのは、実は普通の旅行者じゃなくて、縄文を好きだから来るわけで。その人たちが、そんなことわかるけれども。離れていってしまうと思いますよと、かなり強く抗議していました。 　中にはもちろん一生懸命やっていらっしゃる方もいるけども、そういうのでお茶を濁すというのは、やはり観光業界はたまにあるのです。せっかくのこういう機会なのに、それで何回か、そういうこともあって、実は歩いていて。 　あともうひとつは、それぞれの遺跡で、ボランティアでガイドしている方のガイドの中身とか、実際に確認したくて歩いているのですけども。すごくうまくなっているところは、すごくうまくなっていますね。教育委員会であれば教育委員会をあげて、そういう研修をしたりとかしたりしているところもあるし、逆に前からやっているところは、全然ダメになっている。本当に酷いですよ。ああいうのをなんでちゃんとチェックしないのかなと。私は、また言っちゃあれなのですけど、御所野遺跡は毎年、必ずガイドの中身というのは、遺跡のことがわかったら、そこで変わっていくのだからということで、説明の仕方も変えているのですけども。多分、昔ずっとやったやつをそのまんまずっとやっていて、これは酷いなというのが、ところもあるのですよ。遺跡名は言いませんけど、そんな感じです。だからやはり真面目に本気になって、やはりこっち側の受け入れる側もやらないと。あれは観光だから、そのままにしてといってもいいのではないと私は思うのです。私たちが迎える側でも、ちゃんとこっち側の情報とか、そういうのをきちんと伝えようということでやらないと。
岡村会長：	はい。それで私が、高田さんに引っ張り出されて、縄文世界遺産ツアーのガイドをやりますので、是川に来るかと思います。よろしくお願いします。 　高田さんがおっしゃる通りなのですよ。やっぱりガイドの人達、ボラン

	ティアの人達に任せっきりで。ちゃんとマニュアルを作って、解説書通りにまた喋るというのと、なかなか難しいですよ。 　私が経験したところでは、例えば奈良の平城京に 6 年勤めたのですけど。その時 140 人ぐらいのボランティアの人達がいて、自分たちの目線で、その人たちは発掘作業に携わってきたので、自分たちの目線で遺跡を、私たちと違った形で、非常に身近解説するのですよ。そういうメリットもあるので、誰にどういう人達に対して、誰がどんなふうに説明するのかという、ケースバイケースで柔軟に対応してほしいなという気はします。行政視察的な見に来る人も多いし、専門家のニーズで来る人も居るし、なかなか難しいのですよ。三内丸山なんかでも、沢山来る人達に対するそういう対応は非常にそれに忙殺されていて、悩みの大きなひとつの要素です、難しい。 　中国なんか行っていると、中国のその施設、たとえば世界遺産の施設で、そこに専門の解説者がついていて解説して、最後にはグッズ売り場に連れて行くという、ここは笑って欲しいところなのですけど。そんなこともやっていました。
出貝委員：	年報とか今見ていて、各学校、学校として見学だとか体験だとかというのが、結構来ているなと思うのですが、平日ではなく休日とか、子どもたちとか親子とかも一緒でいいのですけど、なかなかわかりづらいものですが、地元の感覚として、どうですか。来ているものですかね。
岡村会長：	地域連携をしている例えば縄文カードですとか、カードの配布を契機に最近は親子連れで来ていただく方も増えていますし、縄文体験というのは資料 2 のほうにありますけど、4 月から全面再開しましたので、勾玉づくりですとか八戸でも出来るということで、体験学習をしに来ていただく方も増えています。戻ってきていただけるというか、また地元の中高生が、無料コーナーがたくさん館内にありますので、例えば図書コーナーで勉強したりとかそういったこともだんだん増えてきていまして、そういう利用の仕方というのもまた戻って来た感じがあります。
出貝委員：	実ははっふる隊立ち上げのとき、私も携わっていたのですが、一番はバス代無料にしてここの施設に来た。それで終わりじゃなくて、ここの施設に来て体験したことが良くて、家に帰ってもう一回来たいなということで、いわゆるリピーターとしての役割も果たしたいということで始まった事業だったので、そういう意味でも地元の子どもたち中高生も含めて、ここに来るような活動がなされているのだなと思って逆に安心して今お話を聞きました。ありがとうございます。
石川委員：	感想と後半は質問という形にさせていただきます。 　まず年報を読むと本当によくわかることがあって、特に 46 ページと 20

	ページですかね。ホームページの応募者数と来館者数を見ると、先程の話の中に出てきたように、コロナ禍前の水準に来館者総数が戻ってきているという、そういう良い傾向が見られるということを感じました。 ただこの背景にあるのが、先程の 20 ページを見ていただくと、ホームページのアクセス数がここ令和 2 年度から棒グラフが延びているということを見ると、従来の来館者というよりは 57 ページに縄文ボランティアの展示解説利用が増えて、利用者状況というので関東からの人が 3 割位解説しているということを考えると、結構その東北とか近県ではなくて関東からの旅行者、具体的にはこういう団体観光が来ているのかなというのを推測ながら思いました。 　これはある意味、背景として世界遺産効果があったり、ホームページを事前に見て、ここに来たいという、こういう利用者が多分今後どんどん増えてくるのかなと、この年報を見て僕自身は喜んでいるというところです。 　時期を見ても、団体利用者が 9 月から 10 月が多いということが、ある意味 10 月は紅葉を兼ねた、こういう関東とか東北からの利用団体が多いのかなと。そういったところを今後ターゲットとしてどうすれば良いのかということにも、次の質問にも繋がってくるのですけども、今ホームページを見させていただいているのですが、もしできればこのホームページをそういうターゲット層、大人向け観光者、バス利用の団体向けのようなホームページにリニューアルするとか、あと学校団体に関しても教育旅行ですね。そういう教育旅行団体向けの学校教育向けのこういうホームページをリニューアルするとか、そういう風にすると、先程のホームページのアクセス数が高いということで、そういう人たちが出てきたいと思う、ここでどういう風なことを、半日とか 1 日都合つくことができるのかとか、こういったところで今後、一過性で終わらない継続的にこういう利用者が増えていくというような、こういう戦略があるのかなと。 　それは是川縄文館の皆さんだけでは絶対無理なので、以前、僕がお邪魔していた、やはり地域 DMO の VISIT はちのへですね。そことうまく連携して広報するなり、今 JR はどうなるのかわからないですけども、その JR とか JTB など、交通旅行事業者とこういう人たちを事前にこういう体験をするような案内みたいなものを VISIT はちのへを通じてやってもらうとか、こんなところの働きかけをすると、もっと広報 PR というのができるのかななんていうのを思いました。 　後半の話なのですけど、こういう民間会社とか地域 DMO の VISIT はちのへとの働きかけとか、こういうのは何かあるのでしょうか。
事務局：	VISIT はちのへとの連携事業として、八戸市博物館と是川縄文館に行こ

	うというプログラムを VISIT はちのへの提案で実施したことが過去にありまして、片方の館に行くと別の館の観覧券というのをプレゼントしたり、あるいはリンゴジュースを差し上げたりというキャンペーンをして、巡回する観覧者を増やそうという取り組みを VISIT はちのへにやっていただいたことが過去にありまして、今後もそういった事業を計画したいとお話はいただいていますので、今後は連携を密にしていきたいと思います。 　またホームページにつきましてご意見ありがとうございます。内容が充実できるように検討を進めていきたいと思います。ありがとうございます。
岡村会長：	次はそれでは埋蔵のことで何かご意見は。
髙田委員：	報告書について、是川縄文館が出している発掘調査報告書を最近見ることがあって、ずっと見てきているのですけど、普通一般の報告書ですと、調査したところで図面ポンと出して、そこに出たものを図の中に表現して、それで終わってしまうのだけども、ですがここで出している報告書の場合必ず前にやったところの図面とか、その全体の作業の中で、今年掘った分がどういう位置づけかというのをきちんとやっていたのですよ、それを見てびっくりしたな、凄いなと思ったのですよ。 　考えてみればそれは当たり前のこと、当然やらなければならないことで、その掘った人はその場所から何が出たというだけではなくて、それが他との関係でどういう意味があるかということを伝えなければならない訳で、そういうのを見ていて、さすが八戸の皆さんだなという風に思いました。 　それはなんでそういう話をしたかというと、実は遺跡を調査すると、その記録保存なのできちんと図面も記録して、ものもきちんとやって報告書を出してしまえばそれで終わりというか、それで仕事としては完結するのだけども、全国でそういうふうな資料がいっぱいあるのだけれども、それが中々活かされていないというか、本当に国民の中の生活の中で、埋蔵文化財がどれだけ活かされているかとみたら真面目に考えないと、確かに法律で規定されているからきちんと調査しなければならないのだけど、調査したらもうそれでいい収蔵しておけばいい。そして将来いつか 100 年後とか 200 年後本当に利用出来るのかって思うくらい、やっぱりそうするとそういうものを知っていただく。そこからどういう意味があるみたいなことを関わっている人たちは発信するような視点でやっていかないと、埋蔵文化財そのものが本当に将来こういう形で調査出来なくなる可能性もあるのではないかと私はすごくずっと思っていて、確かに難しいのですよ。 　調査したからって遺跡全体を今その場で全部掘るわけでもないし、その

	ほんの一部だし、一部掘ったからといって何がいえるかみたいなことをこだわる人が思うって言っても、中々全部掘らなければわからないっていうこともあるし、そういう難しいのだけどもなんらかの方法というか、そういう様なことで市民の皆さんにこういうことですよ、こういう意味がありますよみたいなことを知っていただくというか、こういう働きが本当に今必要なのではないかなという風に、特に最近の遺跡関係の調査というのは、本当にそういうパターン化してしまって、それで報告書を作れば分厚い報告書ボンと作ってもう終わりで、その後はもう読まないですよ、普通の人は。でもそういう形で、やればそれで終わりという形になっているのが残念だというか、そういう感じが非常にするのですよね。 　さっきの遺跡の観光ツアーの件でも話したけれど、やっぱりそれは違うと思う。そろそろ工夫して、遺跡を調査して遺跡を見ていただく、それも勿論やってらっしゃると思うのだけども、さらにそれが活用できて説明できるような、だから遺跡を調査することが大事なのですよみたいなことを、少しでも理解していただけるようなことをやらなければいけないのではないかなという風な提案をいたしました。
岡村会長：	全くおっしゃる通りで、ここ半世紀くらいの日本の埋蔵文化財行政と発掘行政とそれによって分かった成果と都らつら見ていきますと、俺たちは経済行為が起こされる、ようするに開発を起こされる前にそれをできるだけ早く処理して記録して、できるだけ金をかけないで掘るということに汲々としてきて、結局記録を残してさえおけば後はなんとかなる。遺物は残るから、いつか再分析すればなんとかなる。とにかく日夜記録を取る。昼は発掘、夜は記録、それで 120%働いてきたわけですよね。それで何が残ったのか、例えば今回世界遺産の 17 の縄文遺跡のうち、半分近くやっぱり記録保存でなくなるはずだった遺跡がきちんと残して、きちんと調査していたからであって、きちんと調査したからその成果がわかって、それが残す循環になって、残して世界に誇るものになっていっている。という、そういう良い循環をもっていたところは良いのですけれど、とにかく記録と掘ることだけで汲々としていって、体制は全国で 7000 人、8000 人の掘る公務員、準公務員を作ってきたのだけど、それが本当に日夜めいっぱいやってきた。それ以外はもうちょっと高めなければいけなかった部分に力をさけていないのですよ。お前らいつまでも掘るのかとかね、そんな細かなこと考えなくても良いから、とにかく記録があるって記録を残したのだから、発掘現場なんかなくても良いよという開発側からのニーズに従ってきたのですよね。そういう意味ではよく遺跡の死に水だけやってきた、そう自嘲して言ったりするのですよ。 　そういう中でみんなが頑張ってこられたので、その一番基本のところの

	調査・研究が原点なので、そこを更に充実させると共に、やはり今高田さんが言ったみたいに今まで掘ってきたやつもきちんと再整理したい、それからもうちょっと文化、地域をしっかり語れるような環境、そういったものに固めていく必要があると思うのですよ。それが私は最大の課題だと思います。 　残した遺跡を更にもうちょっとしっかり磨きあげていって、自信を持って一番原点になるところの縄文文化を発信できるようになる。高田さんが言ったみたいに、ここはそれをやっているほんとうに典型的な施設で地域だと思っていますので更に頑張ってください。大変だと思うけれど。 やっぱり事務を効率化したりとか、ゆとりを作ってやってくださいよ。
岡村会長：	昨日の松ヶ崎遺跡見せてもらって、これは三内に準ずる遺跡だなと思いました。色々な研究者たちが注目を集めて、見に来たりしているのですよね。それは高田さんが見られたかどうか、見た。あそこはやっぱり売りは盛土だと思うのですけれど。昨日言い忘れたのだけど、あの盛土は三内の盛土とか御所野の盛土と違うよね。
髙田委員：	盛土を残した人たちの家がどこにあるのかなとか思ったのだけど。どうしてあの集落の中であの盛土は形成されていて、その盛土はほかの地域と違う盛土なのかな。それで考えたら北海道の木古内町のオオヒラだかオオダイという遺跡がちょうど規模が同じで低盛土なのですよね。そういう盛土の形成にも色んなタイプがあるのかなと思ったのですけど、一つあの遺跡の売りというか注目はやはり盛土かなと思いましたので、また来年も発掘が続いていくようですけど、頑張ってください。
事 務 局 ：	松ヶ崎遺跡につきましては、盛土遺構のほぼ全体を調査することができるという、めったにない機会ですので、しっかり調査をして、松ヶ崎遺跡の周辺のほかの地点の調査結果と報告と合わせまして、総合的に理解できるような報告書に向けて調査を進めていきたいと思っています。
岡村会長：	なかなか人が集まらなかったりとか、作業員さんも今、厳しいのだよね。
事 務 局 ：	作業員が、必要数がなかなか集まらないですとか、作業員さんの年齢が高くなっているというところで、気候も暑くなってきていて、調査の進み具合ですとか、熱中症の発生の危険が増えているとか、色んな状況がありまして、なかなか思うような調査の進捗にはなっていないところがありますけれども、この状況を踏まえていろいろ改善できるところはしていきたいなと思っております。
岡村会長：	昨日、私、2時間くらい炎天下にいたのですけど、熱中症対策を全然していないのですよね。全然というとちょっとあれなのですけど、こまめに休むぐらいなのだけど、もうちょっと何か対応出来ないですかね。今後ますますこの高温対策をしていかないといけないというのを感じましたね。

事務局：	はい、休憩するときに日陰で休めるように、風通しが良いところで休めるようにとか、そういったところですぐ出来る対応がありますのでやっていきたいと思います。
岡村会長：	長期の現場は、労務管理もそうだし、それから昼間はクーラーの下で弁当を食べるとか、よく見るのは寒冷紗という農作業で使う黒いネット、ああいうのを現場で張ったりとか、色々やっぱりこまめな対応をしているところが多いので、ぜひこれからそういうことを考慮して欲しいなと思いました。 それからもう一つ思ったのは、埋蔵の中で何と言ったら良いのですかね、これは国の批判にもなるのですけど、補助事業、発掘に対する補助事業がどんどんどんどん目減りしていっているのですよね。毎年 40%程度くらいシーリングがかかっているのです。そういった実態はあまりご存じないと思うのですけど国の発掘に対する補助金、どうしてもゲンシャ負担では求められないようなところ、ここの市内でいえば個人住宅だとか、それから農地改良、長芋のトレンチャー対応だとか、農作業だとか。そんなのには補助金が出るのですけど、先程ちょっと触れましたけど文化庁も法律の中に活用というのを入れて国も活用活用活用で、そういう調査保存と活用を二つの部署に分けたのですよ。それで活用の方ばかり少ないながら、国家予算の 0.01 だったかな、という文化庁予算の中の、もう低額なのですね。それで活用をあれだけ言っているので、活用にお金が流れていって、体制も活用と保存・調査と二つに分けちゃっているのですね。それでその一番根幹になる調査保存のところの予算がガンガン落ちちゃっている。両方伸びるなら大いに結構なのですよ、しわ寄せが来てこっちに、そういうので発掘補助金も、基本的な一番ベースになる調査研究に力を入れていかないと、世界遺産になった遺跡も新しい情報発信が出来ないですよ、昔取った杵柄でそれを繰り返すだけ。さっきのマニュアルが出来て同じ説明がされているみたいな話も、ちょっとやっぱり動いていないのですよね。新しくないのですよね。 ぜひこの市内のトータルな情報、縄文だけではなくトータルな埋蔵文化財に対する充分な手当を今後ともしていって欲しいなと本当に思います。今縄文だけじゃないと言ったのは、ここは縄文文化が現代までずっと受け継がれてきた。そういう場所なので、ずっとその古代、中世、近世、この地域の生活文化等を継承されてきたのだというそういう視点で、そこに民俗学なんかも入ってきて、トータルにその地域の文化を考えていってほしい。それを調査し発信するここはセンターなのだということをぜひ、ちょっとくどいようですけれども、調査が仕事なので、ぜひこれまでと同じようにしっかりした調査を継続してやっていってほしいなと。

	そして展示もその結果として活用して。いい展示をすればまた関心が高まって調査が必要だねという、そういう循環が起こってくるわけだ。展示ももうそろそろ、12 年。部長さんよろしくお願いします。全面リニューアルというと大変でしょうけど、やはり 12 年経ったから見直すべきところは見直して、新しい情報発信しているなという、それだけでもいいと思うので。ぜひ。今の展示、大変上手で俺はいいと思いますよ。本当に評価していて、そこにも惹かれて見に来てくれているのではないかと。そのキーワードは多分、亀ヶ岡文化の土器と漆器、先ほど言われた漆。それが大きなキーワードだと思うのですけれども。 もう一つキーワードにしてほしいのは、やはり自然との共生の文化。それは今回の縄文世界遺産の基本的なコンセプトでもあるのですけど、なかなかそういう情報発信が出来ていない。そういう情報発信が出来るここはもう飛びぬけて絶好の遺跡群ですから、ぜひ大変でしょうけれども、展示に年間一生懸命頑張るのもいいけど、どこかやはり省力化していって優先順位を決めて身の丈に合った頑張りをしてほしいなと、切に思います。何か埋蔵に関してはいいですよね。ぜひ、新聞、情報発信してください。 私たちはやはり一生懸命記録保存してきたのだけれども、その記録保存の基にはマスコミはちゃんと一般に伝えてくれるのだという期待感と、マスコミが遺跡に関心を持ってくれるのは、一般の人たちの代弁者になってくれる。そういうマスコミを通じて普及していきたいと、私はずっとそう思っていました。だけども、下手するとマスコミに煽られてマスコミが喜びそうなネタを、時には捏造のネタまで発信してきたような、そういう心配もありますので、ぜひマスコミのほうも、面白いからとただ飛びつかないで、どうしてそんな発信が出来るのと、その需要設定は何なのというのは本当に聞いてください。表面的に最古最大で、ニュースになる。それでは、そういう時代でもなくなってきているようです。もっと質の高い、世論的な情報発信に耳を傾けてほしいなと思います。そのためには現場を見たりとか色々、夜討ち朝駆けじゃないけど、現場の担当者と話したり現場を見て、どうしてこういう成果が言えるのという辺り、コラボしてほしいなと。マスコミには期待していますね。
木村委員：	そうですね、マスコミも本当は記者でそちらの専門性の高い記者を育成できればいいのですけど、なかなかそこもやはりいろんなこともあって。
岡村会長：	一時そういう話をしたけど、その専門性の高い人たちが報道するやつも実は偏っていて、よろしくないものもあるのですよ。そういう人たちが先導していくのですよ。これはあまりマスコミのそういう人たちに聞かせたくないのですけど。専門が言うことは必ずしもいいことじゃない、むしろ私がさっき言ったように一般の代表として、あたり前な目線で知りたいこ

	とを問いかけてください。 　私の話が長くなりますけども、文化庁にいたときになにか重要だぞとマスコミが騒いでいる案件があるけど、ちょっと来て説明しろと長官から言われて、行って、いや今日のあれは、こういう事で、説明していたら、お前の説明は全然分かんないと、新聞持ってきて、新聞の目線で解説しろと言われて、そうだと思ったことありましたね。だからくどいようですけど、やっぱり一般の人達が持つような関心、問題点にきちっとやっぱり現場に問いかけて、現場はそれに答えていって、なおかつ重要性みたいなものをともに考えてほしい。そして情報発信していただくと本当は嬉しいのですけどね。やっぱり煽られてきましたよ、間違いなく。振り返ってみると、あの時に流した報道、一面トップは今どうなっちゃっていんの、どうなっちゃっているというのは、あの時のニュースが、本当にそのまま重要なニュースとして今、全くそんなこといったことを忘れている、そういう俺たち側の問題点もあるような気はしますね。はっきり言って誤報が多いですよ。それは俺たちが流した誤報ですからね。そういう事をしっかりもう一回俺たちが反省しなきゃいけない地点にかかってきているような気がしますね。
山下委員：	ボランティアさんの体験学習の指導になって、たくさんなされているのですけど、例えば化石の勾玉作りとなっても、6 年生の場合と 1 年生の場合とあと人数が多い場合とか、2 年生とかあると思うのですけれども、これは学年によってとか人数によって、ずいぶんメニューとかプログラムが変わっていたほうが良いと思うのですけど、あの具体的には、今は 1 行でしかわかりませんが、どんなふうに工夫をなされているのかなと思って。
事 務 局 ：	はい、13 ページに体験学習指導の記録がありますが、実際の学年や年代ごとに指導は変えていないというか、ボランティアさんが 10 年以上の、あるいは 20 年の経験がありますので、全年齢に対応できるような話し方に変えて対応してもらっているのが現状になっていまして、やはり低学年は時間をかけるとか、もう少しこれは時間がかかるとか、そういう感覚を持ちながら指導してもらっているような感じになっております。当然低学年の場合は滑石の勾玉も、完成にはほど遠いような状況で終ることもたくさんあるのですが、後はお家で削ったり磨いたりしてねってことで、やすりを持たせてあげるとか、そういうような対応でさせていただいております。
山下委員：	はい、ありがとうございます。子どもたちの満足度というのはどんな感じなのかなと思っています。それは先生に聞いたほうが良いのかもしれないですけれど。
出貝委員：	今見たら、まず基本的に小学校は歴史の学習をするのが 6 年生なので、

	ほぼほぼ6年生だと思います。ここを見ていたら、やっぱり地元の是川小学校さんは、6年生で歴史を勉強する前と地元ということで、多分総合的な学習やら何やらで、この地元というのを愛するためにここに通って1年生から来ているのだと思われます。 　あとは、中学校・高校に関しましては、歴史学習していますので、ある程度素地があってここにきているので、という感じかなというふうに加えて見ていました。なので、来ている学校は、今年来て来年もという形でなっているのではないかな、来年はここに来て、なにを作るぞという、各学校で風土みたいのは出来上がっているのだと思います。
山下委員：	はい、ありがとうございます。今、学校で不登校の子とか、あとちょっと授業についていけない子とか、色々あって現場が大変なのですよなんていう話を聞くのですけど、こういう場に来るとすごく元気になる子がいるとか聞いているので、普通の授業の教科書があって、こうなっていかないと、逆にこちらボランティアさんの方もそうやってちょっと手厚くされると、そういう子も拾ってくださるのかななんて思ったのですけど、ちょっと希望として。
出貝委員：	はい、まさに、こういう校外行事にそういう子は結構来ます。良い一つのステップになるのだと思います。
石川委員：	よろしいでしょうか。前回の運営会議でも出たこの喫茶コーナー「これカフェ」の運営のことについて気になったのですけども、今回の来館者数が増えたりしているということと、先ほどの年報の16ページを見るとはっふる隊といって、この小学校で年1回貸し切りバスでいろいろ訪れてもらっているというところ、こういう学校・団体、こういう子たちというのは、ここを訪れた時に昼食をどういうふうに摂っているのか。この間、縄文カレーが作れなくなってきたとか、そういうところもなんかちょっと心配で、お昼はお弁当で、どこで食べているのかなとか、ホールで食べているのか、そういったところで今後の一つのポイントとしては、館内の滞留時間を伸ばすためには、やはり喫茶コーナーの経営というか運営の仕方というのか、そういったところといわゆる昼食が摂れるような団体用の、そういったところが今現状としてどんなことなのか。またこれをなんとか改良するためにはどうすればいいのかとか、そこらへんの話がもしあれば教えてください。
事務局：	まずミュージアムショップ＆喫茶コーナー「これカフェ」ですが、スタッフの減少が課題になっているということで、職員やスタッフの皆さんがお互いに知り合いに声を掛けた結果、3人程新しい方も入っていただいて少し状況は改善してきておりますが、ただベテランさんはずっとやってきてもらっていますので、12年経って12歳年を取っているということで、

	そういった課題はまだ残っているのですが、声掛けをして今新しいスタッフも増えてきているような状況にはなってきています。 　学校利用の昼食なのですが、基本的にはお弁当を持参で、お昼をまたぐ場合は持って来ていただいていますので、カフェの利用というのはあまりない状況です。体験学習したその部屋でお昼を食べていただいたり、夏場以外は外の芝生でご飯を食べてもらったりとか、学校さんの希望に応じて、可能な範囲でそういったことで利用してもらっております。以上です。
石川委員：	はい。どうも教えていただいて、ありがとうございます。
岡村会長：	何か整備について御質問等ありますでしょうか。今後どういう継続で進めていくかの説明ありましたか。
事 務 局 ：	縄文の里整備事業ですが、今年度はいよいよ史跡公園復元の為の地形造成の実施設計に着手しまして、遺跡南側の沢が復元の予定ですけれども、沢地形復元に向けた設計に入ったところです。 　次年度はこの設計を基に、保護盛土、地形造成を進めて行くと計画となっておりまして、保護盛土は、厚いところでは 1m に及びますので、その際、樹勢が悪いものなど、さらに伐採を進めた方がいい木がないか、そういった検討を昨日、委託業者さんと進めているような状況となっております。以上です。
岡村会長：	はい、よろしいですかね。何か館長さんお伝えすることありますか。
中村館長：	本日は皆さま大変貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。先ほどあいさつのほうでも、昨年度 3 万人を超えて、今年度もかなりの数のお客様が来ていただいていると、世界遺産の効果を感じているところでございます。ただお客様に関しては多分色んな方がいらっしゃると思います。縄文に興味を持っていらっしゃっている方、また観光の一環で来ていただいている方、あとは学校とか、そういった要するに教育施設として訪れている方、色んな方がいらっしゃると思いますけれども、館にとっては、そういった方のニーズに答えられるように、また更には是川縄文というのは八戸市の非常に貴重な財産でございますので、市民にとっては誇り・愛着が持てるように、子ども達にとっても八戸市は凄く良いところなのだと思ってもらえるように、更には一歩進んで考古学に興味を持ってもらって、将来そっちの道に進んでいただいて、またここで働いてもらえるように、そういったパターンにできるように、すべての様々な考古学が持てるような館にしていければいいなと思っているところでございますので、本日皆様からいただきましたご意見を出来るだけ我々も再度検討しまして、充実を図っていければいいなと思っているところでございますので、この会議といわず皆様方色々アドバイス等がありましたら、館の方にでもご連絡をいただければと思いました。

(2)その他について

事 務 局 ：	新型コロナウイルス感染症対策の変更について説明
委　員　：	質問なし